

令和 8 年度

大阪大学

一般選抜（前期日程）

解答例又は出題の意図

国語（L）

I

問一 あるものが特定の美的概念で呼ばれる理由は、特定の文化がそのような美的反応を共有したからとしか説明できない。その一方で、その文化はどのようなものかといえば、特定の美的反応を共有するものとして説明される。このように、美的反応と文化とが互いを説明する関係にあること。

問二 「対象それ自体が客観的にもち、われわれが五感によってはっきり知覚したり物理的に記述したりできる感覚的な特徴の一種」であり、これが、特定の文化のなかの特定のジャンルに固有の仕方で構造化され、この構造に反応する「主観的な経験の実質」として「美的質」が生じる。

問三 日本人や西洋人に特有の美意識が存在するわけではなく、日本人が西洋の文化を理解するよう努めることで、その文化に対応する美的感性を身につけてきた以上、西洋人についても、日本の文化に対応する美的感性を身につけられないと断定する理由はないから。

問四 大西の立場は、「日本の美意識」が歴史を超えて存在するという過度な一般化を批判する点で著者の立場と共通している。しかし著者は、地域のみならず時代や階級によっても異なる社会・文化において共有された「美的フレーミング」により美的質は規定されていると考えており、その立場からすれば、大西は、あはれ・幽玄・さびといった範疇を「美学的理論の統一的根拠から、体系的に分化させる」ことを試みる点で、別の過度な一般化に陥っているから。

II

問一

卷子が一向に帰ってこないことについて、夏子はたいしたことではないと考えつつも不安を感じており、また緑子が徐々に不安になっているのも感じ取っている。そこで夏子は、二回繰り返し言うことで、緑子の不安だけでなく、自分の不安をも和らげようとしたため。

問二

母親の卷子が帰ってこないことについて不安を感じている緑子は、急に立ち上がった夏子までも自分のもとから去るのではないかと心配になり、去らないでほしい旨を伝えようとしたため。

問三

緑子が電子辞書で言葉を調べることについて、卷子が帰ってこないことへの不安をそっちのけで夢中になる素振りを示し、また「予想したことは裏切られるというジンクス」を実践するためにも、電子辞書でこのようなことを調べ続けるのは都合がよかったため。

問四

卷子が夜遅くになっても帰ってこないことに不安を募らせている夏子と緑子は、卷子の帰宅の気配を少しでも察知しようと気を張っていたが、途中からその不安を打ち消そうとして「予想したことは裏切られるというジンクス」に則り、電子辞書で不吉な言葉を調べるのに夢中になり、そのうち卷子のことすら頭が

ら抜け落ちてしまう。そのような「ジnkス」に安心して気を張っていなかった最中での大きな物音だったため。

III

問一

てにをは（などの言葉の使い方や文法）の区別ができない歌人が和歌を詠むということはそもそもあってはならないことであります。

問二

花が咲いたなら昔を懐かしく思って涙が袖を濡らす、このようであれと思って昔の人は（この花を）植えたのだろう。

問三

西行は初句に悩み、自分よりも歌のうまい定家・慈円にアドバイスをもらいに行ったのに教えてもらうことができず残念に思ったため、すぐに帰らず立ち聞きした結果、慈円の考えた「風になびく」の句を知り、「するがなる」より良いと思っ（て和歌を直し）たから。

問四

歌人の手本である柿本人麻呂の名歌を詠み始めた後に、あちこちに趣向を変えて、たとえ和歌とは違うジャンルの謡曲の一節と置き換えても和歌として成立するように、心動かされた題（もの）を直接的に取り上げて歌に詠むことが重要である。

問五

和歌の題には（真正面から）向き合って他の題材を入れてごまかさず、心から出てくる感興を素直に詠んだ上で、和歌に詠まれた感慨・趣向を読者が確実に理解できるような歌。

IV

問一 使者を犬が出入りするような小門に通すのは、犬の国のごとき賤しい小国のすることであって、楚のような大国にはふさわしくない。楚国自ら国家としての品格を貶めている。

問二 まさにこのもんよりいるべからず。

問三 一人が着る衣の袖は小さく、一人が流す汗の量は少ない。しかし齊国には、衣の袖をつなぎ合わせれば大きな帳となって辺(あた)りを覆(おお)い、汗を集めれば大量の雨となって降るほどに、多くの人材が集(つど)っている。

問四 齊国に人材が多いというなら、どうして貴方（のような者）を使者として派遣したのか。

問五 楚王は使者の晏嬰を不肖（無能、愚劣）だと蔑(さげす)み軽んじているが、それは楚王自らが不肖なる使者しか迎えられない不肖なる王だと認めているようなものだ。楚王こそは、軽蔑すべき愚かな為政者の最たる者である。

以上です